

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.294

2017年11月

名古屋大学レクチャー2017を開催



目次

●ニュース

名古屋大学レクチャー2017を開催	3
「愛岐留学生就職支援コンソーシアム設立総会」を開催	4
名古屋大学米国ノースカロライナ事務所 NU Tech 設立10周年記念行事を挙	4
「HeForShe IMPACT 10x10x10ジェンダー平等報告書」発表イベントに出席	5
平成29年度名古屋大学技術職員研修「装置開発コース」を開催	5
平成29年度秋季卒業式を挙	6
平成29年度秋季入学式を挙	6
名古屋大学オープンイノベーション拠点（OICX）オープニングセレモニー 及び見学会を開催	7

●知の先端

日本古代家族史を読み直す：双系社会論、文化受容論の観点から	8
胡 潔（大学院人文学研究科教授）	

●知の未来へ

「よし、クリーニング屋に行こう！」—子どもの学びと生活経験とをつなぐ プラグマティズム	10
生澤 繁樹（大学院教育発達科学研究科准教授）	

●部局ニュース

人文学研究科設立記念行事を挙	11
日本法教育研究センター・コンソーシアム設立記念シンポジウムを開催	11
紫綬褒章受章記念講演会及び懇談会を開催	12
タマサート大学消化器病学のトレーニングセンター開所式に出席	12
解剖弔慰祭を挙	13
農業ふれあい教室を開催	13
第19回 まちとすまいの集い「健やかに築く—まちとすまい」を開催	14
頭部外傷予防講習会を開催	14
グローバルディスカッション2017を開催	15
光粒祭を開催	15
第69・70回名古屋大学博物館コンサート（NUMCo）を開催	15

●名大を表敬訪問された方々

	16
--	----

●新たに締結した学術交流協定

	16
--	----

●構成員を対象とした研修

	17
--	----

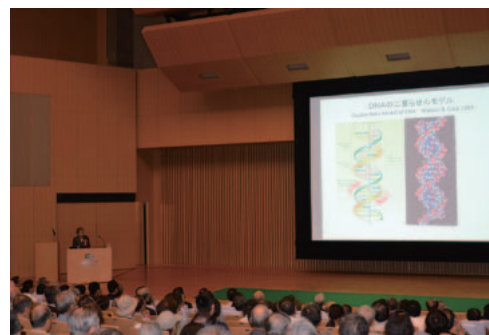
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成29年9月16日～10月15日	18
----------------------------------	----

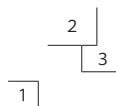
●イベントカレンダー	22
------------	----

●ちょっと名大史	22
----------	----

名大の最寄り駅②—地下鉄の発展—	24
------------------	----

名古屋大学レクチャー2017を開催





- 1 講演を行う岡崎特別教授
- 2 レクチャー権授与の様子
- 3 総長からレクチャー権の授与を受ける岡崎特別教授（中央）と篠崎特別教授（右）

「名古屋大学レクチャー2017～生命存続の基本原則を紐解く～」が、9月16日（土）、本学と中日新聞社の共催により、豊田講堂において開催されました。本レクチャーは、本学が主催する最も重要な講演会の一つであり、様々な学問分野の卓越した研究者による講演を広く一般市民の皆様に公開して、今日の最高の「知」に触れていただくために行われるものです。講演者には、本学で最も栄誉ある「名古屋大学レクチャー」の称号が与えられ、表彰権が授与されます。

第13回目となる今回の講演者は、植物の環境ストレスの応答と適応について世界に先駆けて分子・細胞レベルの研究に取り組み、環境ストレス応答と耐性獲得機構に関わるホルモンの働きやシグナル伝達因子を次々と発見し、植物科学の基礎研究と応用研究で世界を牽引されてきた理化学研究所環境資源科学研究センター長である篠崎一雄特別教授と、世界中の生物の教科書に記述されているDNAが不連続複製されていくときにできる「岡崎フラグメント」を夫の岡崎令治博士とともに発見し、令治博士が白血病で夭折された後も研究を続けて、DNAの不連続複製機構を解明された藤田保健衛生大学特別栄誉教授である岡崎恒子特別教授でした。

当日は、まず松尾総長のあいさつで



幕を開け、前半の部として、木下俊則トランスフォーマティブ生命分子研究所教授から篠崎特別教授の業績についての解説講演、そして、篠崎特別教授から「厳しい環境で生きる植物の生存戦略－植物遺伝子の働きと制御－」と題した記念講演が行われ、環境ストレスに対する植物の生理的応答について遺伝子レベルでどのような応答と耐性機構が働いているのか、その応用研究についてわかりやすく講演されました。後半の部として、町田泰則名誉教授から岡崎特別教授の業績についての解説講演、その後、岡崎特別教授から「私がたどった研究の道－DNAの不連続複製機構からヒト染色体構築まで－」と題した記念講演が行われました。記念講演では、令治博士が亡くなった後に二人の幼子を育てながら行ったDNAの不連続複製機構解明研

究や、ヒト染色体構築研究とそのベンチャー企業設立などについて、当時の時代背景も織り交ぜながら丁寧に講演されました。当時の日本では、女性が子育てをしながら研究を続けることに対して批判的な見方が強かった中、1959年ノーベル生理学・医学賞を受賞した恩師のアーサー・コンバーグ博士から研究を続けるようにとの励ましの手紙を受けて、女性研究者の先駆けとして道を開拓されてきた様子などが語られました。

講演参加者は約700名で、「植物の遺伝子を工夫することで厳しい環境でも育つ植物が出来ることがわかって面白かった」、「生物の教科書で出会った岡崎先生にお会いすることができ、研究内容を知ることができ嬉しかった」といった感想が寄せられました。

「愛岐留学生就職支援コンソーシアム設立総会」を開催

「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」設立総会が、9月11日(月)、シンポジオンホールにおいて開催され、愛知県及び岐阜県下の大学、産業界、公的機関関係者、また、留学生並びに企業関係者総勢120名が参加しました。

本総会は、文部科学省の委託事業である留学生就職促進プログラムを通じて設立され、愛知県、岐阜県を中心とし



渡辺理事による幹事会でのあいさつの様子

た産官学の連携による留学生の就職支援を実施することを目的としています。現在は本学をはじめ計11機関が加盟会員となり、本事業に対して多方面からの取り組みがなされています。

当日は、第一部を幹事会として、代表幹事である松尾総長の代理として渡辺理事があいさつした後、事業計画や予算案等の報告が行われました。加えて、第二部としてコンソーシアム加盟大学である岐阜大学、名古屋工業大学、名城大学から留学生を招致し、トークセッションが行われ、本学からは土井康裕総長補佐、小林 侖日本貿易振興機構名古屋貿易情報センター係長も交え、近年の留学生の日本国内での就職活動事情などについて実体験を元にした意見が意欲的に交わされ、留学生の生の声を聞くことができる貴重な場となりました。

また、その後の質疑応答では、参加者から様々な目線での鋭い質問が飛び交い、本コンソーシアムメンバーのみならず、参加者側からも留学生支援に対する熱意を感じ、今後のプロジェクト盛運への期待が益々高まっています。

名古屋大学米国ノースカロライナ事務所 NU Tech 設立10周年記念行事を挙げる

名古屋大学米国ノースカロライナ事務所である現地法人 Technology Partnership of Nagoya University, Inc. (NU Tech) の設立10周年記念 BioMedical Engineering (BME) シンポジウム及び10周年記念レセプションが、9月18日(月)、ノースカロライナ (NC) 州立大学において開催されました。



レセプションの様子 (写真左が総長、右がウッドソン総長)

本シンポジウムは、松尾総長、オーリック・エイデンプロボストの参加の下開催され、オーリックプロボストによる歓迎あいさつした後、総長があいさつし、来賓である新井知彦在米日本国大使館参事官が祝辞を述べました。その後、BME 分野で著名な研究者である馬場嘉信工学研究科教授らが基調講演を行いました。

夕刻には、同窓会館において、レセプションを挙行しました。ランディ・ウッドソン NC 州立大学総長が参加し、篠塚 隆在アトランタ日本国総領事も出席しました。レセプションでは、総長の感謝の言葉、ウッドソン総長の祝辞、アンソニー・コーポランド NC 州商務省長官の祝辞の代読の後、本学及び NC 州立大学の産学連携協定の調印式も行いました。そして、NU Tech10周年及び今後の継続したパートナーシップを祈念した鏡開きが行われ、篠塚総領事の発声により乾杯が行われました。

レセプションには各方面から様々な方々が参加し、大変盛況なものとなった他、NU Tech へのサポートの大きさ、そして、今後の NU Tech の NC 州等での活動への期待の大きさを改めて感じる事ができるレセプションでした。

「HeForShe IMPACT 10x10x10ジェンダー平等報告書」 発表イベントに出席

UN Women は、第72回国連総会開催期間中の9月20日(水)、米国ニューヨーク市において、HeForShe IMPACT 10x10x10事業の一環として、HeForShe を主導的に推進する世界の国家リーダー10名、世界の企業リーダー10名、世界の大学リーダー10名によるジェンダー平等に向けた方策に関する HeForShe IMPACT 10x10x10 Parity Report



ヌカカ UN Women 事務局長及び HeForShe IMPACT Champions

(ジェンダー平等報告書) を発表しました。昨年度は企業版・大学版「ジェンダー平等報告書」がそれぞれ発表されましたが、今年度は、国家・企業・大学による総合的な報告書として発表され、世界の30名のリーダーがそれぞれの具体的なコミットメントを説明し、ジェンダー平等の実現に向けた進捗状況を明らかにしました。

HeForShe を推進する世界の主要10大学に、日本からは唯一本学が選ばれています。今回で2回目となるジェンダー平等報告書の発表イベントには、約1,000名の関係者やメディアが出席し、プムズイレ・ムランボ・ヌカカ UN Women 事務局長に加え、国家リーダーとして安倍晋三内閣総理大臣、フィンランド大統領、マラウイ大統領、ルーマニア大統領、企業リーダーとしてバークレイズ、PwC、ボーダーフォン及びエレクトロニック・アーツのCEO、大学リーダーとして松尾総長ら8大学の学長が登場しました。総長は、「4つの大陸からの事例報告」のパネリストとして、キャンパスにおける性暴力撲滅に向けた取り組み状況などについて報告をしました。

平成29年度名古屋大学技術職員研修「装置開発コース」を開催

平成29年度名古屋大学技術職員研修「装置開発コース」が、9月20日(水)から9月22日(金)までの3日間、開催されました。今年度初の試みとして、中国の大連理工大学から受講者として祝 勇 工程師、孫 愛輝 工程師、通訳として曲 媛 国際協力所日本担当職員、聴講として梁 延徳 工程訓練センター長、張 紅哲 工程訓練副センター長の計5



3次元データ作成の様子

名が参加しました。大連理工大学は、昨年、本学と学術協定を結び、全学技術センターも梁センター長を中心に交流を進めてきました。今回の目的は、本学技術職員の研修に大連理工大学の工程師(技術職員)に参加してもらい、全学技術センターの技術職員をより理解していただくことです。

1日目は一般講義と専門講義があり、後半のプログラムでは、張副センター長が大連理工大学工程訓練センターの紹介をしました。2日目は実習、3日目は実習及び施設見学を行いました。

今回、受講者として参加した祝工程師、孫工程師は、全学技術センターからの案内に対して積極的に手を上げて参加された方で、実習も非常に意欲的で、通訳を通して担当講師に質問をしていました。

閉講式では財満全学技術センター長から祝工程師、孫工程師へ参加証が渡され、その後のあいさつで、両大学の交流が益々発展し、技術職員のさらなる交流が期待されると述べられました。

平成29年度秋季卒業式を挙行

平成29年度名古屋大学秋季卒業式が、9月27日(水)、豊田講堂において挙行されました。

今年度の秋季卒業生及び修了生は、学部54名、修士課程及び博士課程前期課程103名、医学博士課程及び博士課程後期課程43名、専門職学位課程1名の計201名となりました。



「総代の辞」を述べる総代

卒業生・修了生の多くは、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（G30）」により設置された国際プログラム群等の外国人留学生であり、式典はすべて英語で行われる等グローバルに相応しい雰囲気で行われました。

式典では、松尾総長から各学部の卒業生及び各研究科の修了生の代表に学位記が授与され、次いで、卒業生及び修了生に対し、本学における課程を修了したことへのお祝いの言葉と、本学が培ってきた世界的なネットワークの一員であることを自覚し、強い意志により未来の課題に挑戦し、人生を切り開いていくことを希望する旨、はなむけの言葉が贈られました。

これを受け、卒業生を代表して経済学部のグエン・ハンアンさんから、修了生を代表して大学院医学系研究科のアハマド・エルサイド・エルアドル・アハマドさんから、指導教員をはじめとする教職員や多くの友人・家族の支えがあり卒業・修了の日を迎えることができたことへの感謝の気持ち、本学での勉学は大変ではあったが、本学で学び経験したことを今後の人生の糧とし、卒業・修了後もそれぞれの道で活躍していきたい旨の「総代の辞」が述べられました。

平成29年度秋季入学式を挙行

平成29年度名古屋大学秋季入学式が、10月1日(日)、理学南館 坂田・平田ホールにおいて挙行されました。

今年度の秋季入学生は、学部46名、大学院219名（修士課程及び博士課程前期課程104名、医学博士課程及び博士課程後期課程115名）の総勢265名となりました。

秋季入学生の多くは、留学生特別コース、国際プログラ

ム群（G30）、国際環境人材育成センターが実施する「国際環境人材育成プログラム」等、海外からの留学生です。

東アジア、東南アジアをはじめとする世界各国から入学した留学生が出席する中、式典はすべて英語で行われる等、本学のグローバル化がより感じられる入学式となりました。

式典は、本学交響楽団が演奏する「カノン」（パッヘルベル作曲）で始まり、松尾総長から祝辞が述べられ、続いて、役職員等の紹介の後、大学院工学研究科博士課程後期課程のアルディアンシャ・ファウジさん（インドネシア）が入学生総代として、入学にあたって学生としての本分を全うすることを宣誓しました。

閉式後は、豊田講堂内で、晴れやかな表情で記念撮影をする入学生の姿が見られました。



総長からの祝辞の様子

名古屋大学オープンイノベーション拠点 (OICX) オープニングセレモニー及び見学会を開催

10月1日(日)から本格稼働を開始した名古屋大学オープンイノベーション拠点 (OICX) のオープニングセレモニー及び見学会が、10月11日(水)、JR ゲートタワーにおいて開催されました。

OICX は、産学共創教育という新しい産学協調の仕組みにより、学生ベンチャーを支援し、優秀な学生の研究力を産業

界と共有することで、アントレプレナー教育の実践と、研究成果の迅速な社会還元を実現することを目指しています。

オープニングセレモニーには、OICX 設置にあたって多大なご寄附をいただいた岡谷篤一岡谷鋼機株式会社取締役社長をはじめとする関係企業や、愛知県などの自治体及び学生ベンチャーから50名弱が集まりました。松尾総長からは、「現状、ベンチャー企業数は東京や大阪に比べて少ないが、『小さく産んで、大きく育てる』という方針で、まずは本学が重点的な研究開発分野の一つと位置付けている『自動運転技術』を中心に、学生ベンチャー、企業が集うオープンイノベーションの場としていきたい」とあいさつがありました。OICX を利用している学生ベンチャー代表者からのあいさつ、OICX の拠点長である武田一哉未来社会創造機構教授からの概要説明等のもと、総長、協力企業、学生ベンチャーによるテープカットが行われました。

オープニングセレモニーに引き続き見学会が開催されると、企業からの参加者が学生ベンチャーの代表者等に話しかける姿も見られ、早速、オープンイノベーションの場としての機能が発揮されていました。



総長らによるテープカットの様子

日本古代家族史を読み直す：双系社会論、文化受容論の観点から

胡 潔 大学院人文学研究科教授

私は現在古代日本の婚姻形態、家族形態を研究対象の一つとしています。大学院で平安文学を専攻し、修論も博論も『源氏物語』に描かれた平安貴族の婚姻形態について書いたのが始まりです。そこから日本古代の婚姻、家族に関連する問題、例えば、居住形態、親族呼称、出自集団などについて考えるようになりました。

双系とは出自概念を表す用語です。ある個人が過去の祖先との間にその系譜的連鎖によって持っている関係を「出自」といいますが、父系を辿っていく場合は父系出自、母系を辿っていく場合は母系出自といいます。しかし、このような単系出自社会ではない社会も少なくありません。これらの非単系社会は一般的に双系社会と総称されます。その代表例として東南アジアの諸社会があげ

られますが、北方にあるエスキモー社会も同じです。排他的で強力な出自集団を持たない点で単系（父系・母系）社会と区別されます。日本も双系社会の一つです。

日本古代家族研究に双系論が登場してきたのは1970年代以降で、それまでは古代日本は父系社会だったとする認識が支配的でした。苗字は父系的に継承され、律令の婚姻、家族に関する規定内容や奈良時代の戸籍記載、記紀の系譜記載などを見ても、父系主義が貫かれています。しかし、『万葉集』の歌や平安時代のカナ文学に目を転じれば、そこに父系制社会とまったく異なった婚姻や家族の姿があります。この両方の現象をいかに理解し説明するかは長い間日本古代家族史、婚姻史の課題でした。双系論の導入の背景には、父系や母系



最近の論著（共著を含む）

などの単系社会の理論で古代日本の家族や婚姻を説明しようとする従来の議論に対する疑問があったのです。双系論の視点からみれば、古代日本社会は双系社会と一致する点が多いです。例えば日本語の親族名称は直系・エスキモー型に属しますが、父の兄弟姉妹と母の兄弟姉妹は同じく「オジ・オバ」、父の兄弟姉妹の子供と母の兄弟姉妹の子供も同じく「イトコ」で指し、区別しません。父系・母系による親族の分類が反映されない点は双系社会の特徴を表しています。また、父系や母系の親族集団を形成させるために必要な族外婚の不在や父系中心の家族の形成に必要な夫方居住形態の不在、男女ともに相続権を持っていることなど、多くの点に双系社会の特徴を見いだすことができます。

双系説はこれまでの家族論の固定観念を打破し、新たな分析視角を提供することになりましたが、ひとくちに双系社会といっても様々なものがあります。より正確な定義や具体的な方法論が求められています。私はこれまで双系社会論の理論を取り入れながら、文化受容の観点から古代日本の双系的諸特徴を論じてきました。古代日本を考察する場合、古代中国の父系制との関わりが欠かせない視点となります。私の関心は、単系（父系）原理が双系社会の日本に移入された後に顕著に見られる父系的偏向と母系的偏向の並存のメカニズムの解明にあります。近年では律令制の導入と婚姻慣行の相関関係について研究しており、その内容を『律令制度と日本古代の家族・婚姻に関する研究』に纏めました。その中で、婚姻形態や居住形態に現れる母系的な偏向と、蔭位制や嫡子制など制度面に現れる父系的な偏向とを新たな視座から総合し、局部的にみれば父系的または母系

的にみえるが、その内実は、双系社会が単系の父系制原理との接触によって起こった双系的修正であり、一種の文化複合現象であったと指摘しました。

これからも学問分野の垣根を越えて、隣接分野の方法や視点を取り入れながら、古代日本の家族、婚姻の諸問題の解明をめざしていきます。

1999年お茶の水女子大学人間文化研究科比較文化専攻博士課程修了。博士（人文科学）。お茶の水女子大学大学院助手、名古屋大学国際言語文化研究科准教授、教授を経て現在人文学研究科日本文学講座教授。
著書は『平安貴族の婚姻慣習と『源氏物語』』（2001年、風間書房）、『律令制度と日本古代の婚姻・家族に関する研究』（2016年、風間書房）など。



「よし、クリーニング屋に行こう!」―子どもの学びと生活経験とをつなぐプラグマティズム

学校で学ぶことと社会や身のまわりの生活経験のなかで生じていることは、いったいどのようにつながるのでしょうか。私は教育の哲学・思想史を主たる研究領域としていますが、これまでそのような問いへの実際の関心から教育実践へと足を踏み入れ、総合的な学習の時間の授業開発に携わり、さまざまな生活経験の知をつなぐ学びとはなにかということについて考えてきました。

研究テーマとしているアメリカ・プラグマティズムの哲学者ジョン・デューイ (John Dewey, 1859-1952) は、シカゴ大学に実験学校をつくり、子どもの学びと生活経験とをつなぐ教育理論を深めたことでも知られています。『民主主義と教育』(1916) という著作のなかで、デューイは次のように語っています。すなわち、哲学はみずからが思い描いた価値をすぐさま実現にうつすアラジンのランプを手にしていない。まさに教育こそが、哲学のなかで考えられているアイデアを具体化し、それを試す実験室となるのだ、と^[1]。

デューイの重要なアイデアのひとつに、衣・食・住などのオキュペーションをとおした活動的な学びがあります。私たちの「思考」とは、不確かであったり、なぜかと疑問を抱いたり、問題を感じたりする困惑した状況があることによって生じます。活動のなかで「問題」や「疑問」に直面し、その問題や疑問を解消するためにみずからの経験を反省的思考へと結びあわせていく「探究」が開始されていくわけです (図1)。

かつていろいろな種類の古着をじっさいに洗ってみるというプロジェクト型の活動をとおして、子どもたちが「どうやって洗うのだろう?」と探究に取り組み、洗うということの原理と不思議にせまる授業を学校の先生たちと開発したことが

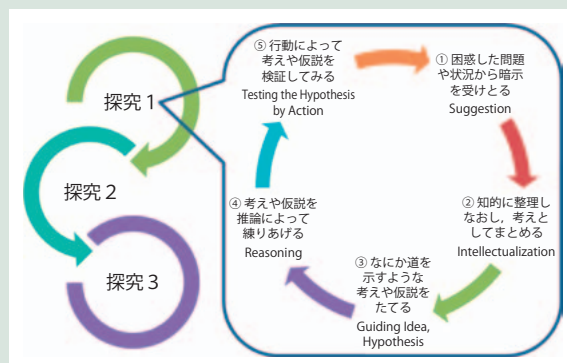


図1 探究の連続性と反省的思考の五局面。学びのなかで子どもたちの探究がさらなる探究を生みだしていく。たとえば、J. Dewey, *How We Think*, in J. A. Boydston, ed., *John Dewey: The Later Works, 1925-1953*, vol. 8, Southern Illinois University Press, 1986を参照のこと。

ありました (図2)。すると、その活動がはじまるやいなや、あるグループの子どもが口にしたのは、「よし、クリーニング屋に行こう!」というセリフ。デューイの実験学校でも、同じようなシーンがあったことを思い出します。「どうしてこんな面倒なことをやるのかしら。はやくお料理の本のやり方どおりにしましょうよ」^[2]。

授業をつくるということは、けっして容易なことではありません。ねらいや意図が外れるなかで、私たち大人や教師の想定する教育観がすぐ多く問い返されます。ですが、思いもかけない発言や出来事から、子どもにとっても大人にとっても新しい探究がはじまります。学校は子どもたちをよりひろい世界や社会へと誘う重要な役割を担いますが、既成の社会やシステムへの適応と準備をはかるだけのものではありません。身近な生活を見つめなおし、いまある社会のあり方について考え、新しい社会へとつくりかえていく視点を手にする機会ともなります。学校のもつ教育機能は、子どもたちの学びと生活経験や社会とをどのようなかたちでつなげるかによって、いつもその意味が大きく試されているのです。

[1] John Dewey, *Democracy and Education*, in J. A. Boydston ed., *John Dewey: The Middle Works, 1899-1924*, vol. 9, Southern Illinois University Press, 1980, pp. 338ff. = 松野安男訳, 『民主主義と教育 (下)』岩波書店, 1975年, 201頁以下。

[2] John Dewey, *The School and Society*, in P. W. Jackson ed., *The School and Society and The Child and the Curriculum*, The University of Chicago Press, 1990, p. 38. = 市村尚久訳『学校と社会・子どもとカリキュラム』講談社, 1998年, 102頁。



図2 「洗うこと」のふしぎにせまる。実践はときに期待を裏切り、ときに予想をこえた成果をもたらす試行と思考の連続となる。洗うことについて考えながら各教科の学びをつなぎ、学校・家庭・社会と子どもの生活経験とを結びあわせる総合的探究を試みていった。

人文学研究科設立記念行事を挙行

●大学院人文学研究科

大学院人文学研究科は、10月11日(水)、人文学研究科設立記念行事として記念式典及び記念講演会を開催しました。同行事は、高い異文化理解能力と言語運用能力を持った人材を育成し、人文学の叡智を社会に還元することで、現代社会が直面する諸問題の解決に寄与することを目的に、大学院文学研究科、大学院国際言語文化研究科及び大



設立記念式典の様子

学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻を統合再編して、本年4月1日に大学院人文学研究科が発足したことを記念して開催されました。

記念式典では、松尾総長、佐久間人文学研究科長のあいさつに続いて、義本博司文部科学省高等教育局長(石橋 晶国立大学法人支援課企画官代読)、奥山倫明南山大学大学院人間文化研究科長、金水 敏大阪大学大学院文学研究科長(古尾谷知浩人文学研究科副研究科長代読)から祝辞が述べられました。

式典後には、亀山郁夫名古屋外国語大学学長による「文学の可能性と人文学的教養の未来」と題した記念講演が行われ、100名を超える教員、学生等が参加しました。

日本法教育研究センター・コンソーシアム設立記念シンポジウムを開催

●大学院法学研究科、法政国際教育協力研究センター

大学院法学研究科及び法政国際教育協力研究センター(CALE)は、日本法教育研究センター・コンソーシアムと共催し、10月1日(日)、アジア法交流館アジアコミュニティフォーラムにおいて、シンポジウム「今日日本で求められる国際司法人材とは—司法外交を基軸として」を開催しました。本学が、2005年からアジア各国に設立した日本法



シンポジウムの様子

教育研究センターの活動をオールジャパンで実施するため、今年5月に同事業に賛同する大学・研究者・実務家・企業が参画する日本法教育研究センター・コンソーシアムを設立しましたが、同シンポジウムは同コンソーシアムの設立を記念して開催したものです。

日本は、明治期からの司法制度構築の経験を生かし、ベトナムをはじめとするアジア諸国に対する法整備支援事業を展開してきましたが、国際情勢が変化するなか、日本型司法制度の強みを重要なソフトパワーとして、「法の支配」及び「基本的人権の尊重」などの普遍的価値を世界に浸透させる「司法外交」を積極的に展開しようとしています。同シンポジウムでは、法務省、外務省、文部科学省及び大学有識者から報告者を招き、司法外交を展開する上でどのような国際司法人材が求められているか、今、大学は国際司法人材育成のために何をすべきかについて議論しました。政府関係者、研究者、実務家など70名を超える幅広い関係者が一堂に会し、同テーマを議論することは有意義であり、盛会のうちにシンポジウムを終えることができました。

紫綬褒章受章記念講演会及び懇談会を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、10月13日(金)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、森 郁恵理学研究科教授が2017年春の褒章における紫綬褒章を受章したことを記念した講演会及び懇談会を開催しました。

森教授の多彩な交友関係にもふれた杉山理学研究科長の冒頭のあいさつの後、同僚の久本直毅理学研究科教授によ



受章記念講演会の様子

る森教授の紹介に引き続き、森教授が受章対象となった線虫の脳神経回路の研究に関する講演を行いました。線虫を研究材料に定め神経回路の研究を通じて動物の動作原理の解明に至るこれまでの経緯と最新の研究成果、それを彩る様々な出会いについて、米国留学時代の一コマを映すビデオメッセージを交えて分かりやすく臨場感豊かに講演されました。

懇談会には、森教授にゆかりの深い大学院理学研究科の教職員や学生が多数参加し、近藤孝男名誉教授の祝辞に引き続き、篠原高等研究院長が乾杯の発声をされ、和やかな歓談の一時を過ごしました。女性の参加者も多く、華やかに宴のたけなわを迎えた頃、来賓として出席された森教授の九州大学時代の同僚、前田 明藤田保健衛生大学教授が森教授との出会いをユーモア溢れるスピーチで紹介され、満場の喝采を博されました。飾らず率直な森教授の人柄をそのままに、くつろいでにぎやかな懇談の機会となりました。

タマサート大学消化器病学のトレーニングセンター開所式に出席

●大学院医学系研究科

タイ王国において国際連携で進めてきた消化器病学のトレーニングセンターの開所式が挙行政され、8月28日(月)、タマサート大学内において、後藤秀実医学系研究科教授が佐渡島志郎在タイ日本国大使とともに出席されました。開所式は、ソムキット・ラートパイトゥーン同大学長をはじめ、地元の医療関係者など約200名が参加し、盛大に執り行われました。

タマサート大学は、タイで最も歴史のあるチュラロンコン大学に次ぐ歴史を有しており、多くの首相や各界の著名人を輩出しています。2012年には、海外で通用する医療プ

ロフェッショナルの教育とASEANの医療のハブとなるようにチュラポーン国際医学部(CICM)を設立しました。

今回、CICM内に消化器病学をはじめとして、4種類のトレーニングセンターが設立され、同時に消化器内科は、CICMと人材交流・育成に対する覚書を締結しました。また、チュラポーン王女の60回目の生誕祝いを兼ね、第1回国際学会も同時開催されました。

今後、本学は、タマサート大学がトレーニングセンターを活用して、消化器病学の医療知識・技術の向上の普及に貢献できるよう育成指導の支援をしていきます。



佐渡島大使立会いの下、覚書締結の様子
(写真前段右2人目、後藤教授)



開所式におけるテープカットの様子
(写真左からスポン・シャロンブ氏、ソムキット学長、佐渡島大使、後藤教授)

解剖弔慰祭を挙

●医学部

医学部は、10月12日(木)、医学の教育研究のために御献体された故人を慰霊するため、解剖弔慰祭を執り行いました。今年度も御遺族をはじめ、教職員、学生ら約300名が参列し、故人のご冥福をお祈りしました。

式典では、門松医学部長から「医学への御献体に対し心からの敬意と感謝の意を捧げるとともに、医学医療の進



弔慰祭の様子

歩・発展及び医師・医学研究者の育成のために一層努力する覚悟であります」と慰霊のことばが述べられました。

また、学生を代表して医学部医学科2年加藤大暉さんが「私たちは解剖学実習を通して、自分は良き医療人とならなければならないという志と覚悟を心に刻みました。そして、御献体してくださった方々の崇高な御遺志を無駄にすることなく、医学の発展のために日々精進します」と御霊と御遺族に対して誓いました。

式典に引き続き、解剖供養塔に御遺族、教職員、学生がお参りました。

なお、今回供養された献体数は、系統解剖50体、病理解剖20体で、医学部創設以来の献体総数は17,731体となりました。

農業ふれあい教室を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドは、9月30日(土)、農業ふれあい教室「親子農業体験—サツマイモとラッカセイの収穫」を開催しました。東郷フィールドでは、地域貢献特別支援事業「都市近郊の農業教育公園」の一環として、平成14年度から毎年、近隣地域の児童・生徒が農業や自然を体験・学習する



サツマイモ掘りの様子

機会として、農業ふれあい教室を開催しています。今回は、近隣地域の20家族49名が参加しました。

収穫作業を始める前に、東郷フィールド内の農業館で、5月末に植付けをしたサツマイモとラッカセイの4ヶ月間の育成を記録した写真を見ながら、これら作物の育ち方について説明を受けた後、畑に出かけ、土の中で育ったサツマイモとラッカセイを観察し、それぞれの特徴について学習しました。ほとんどの参加者にとって土の中で育ったラッカセイを見るのは初めての経験で、熱心に観察していました。収穫作業では、親子で協力しながらスコップや移植ごてを使ってサツマイモを掘り、ラッカセイは株ごと抜いて食べごろのさやを集めました。最後に、朝から準備しておいた蒸かしイモを味わい、秋の味覚を楽しみました。

当日は天候にも恵まれ、参加者は親子で協力しながらサツマイモとラッカセイの収穫を楽しみました。参加した児童は、担当スタッフに質問しながら、生き生きと取り組んでいました。保護者からは、親子で学習しながら楽しめる同様な企画を次年度もぜひ開催してほしいとの要望が寄せられ、好評のうちに農業ふれあい教室を終了しました。

第19回 まちとすまいの集い「健やかに築くーまちとすまい」を開催

●大学院環境学研究科

大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学教室は、10月7日(土)、環境総合館レクチャーホールにおいて、「まちとすまいの集い」を開催し、約60名の参加がありました。

人口減少・超高齢化、働き方改革といった話題とともに、市民の「健康」への関心が高まっています。市民生活を支える「まちやすまい」は心身の健康を育む大切な環境であ



丸山教授による講演の様子

るとともに、まちやすまいの健康そのものが地球の健康にも影響を与えています。今回は「健やかに築くーまちとすまい」をテーマに、幅広い視点から講演が行われました。

まず、丸山一平同研究科教授から「すまいと社会の健康について」と題し、健康な都市や文明を担うレジリエンスという観点から、次世代にどのようにうまく社会をつなげていくことができるか、また、建築物の健康な状態を維持するための方法について解説がありました。太幡英亮工学研究科准教授からは「健康的なライフスタイルーそのための『まち』と『すまい』」と題し、現代社会における健康なライフスタイルを支えるための取り組みとして、子連れコワーキングスペース、農のあるサードプレイス、多世代型児童館などについて紹介されました。最後に、齋藤輝幸環境学研究科准教授は、「健康と快適ー『すまい』の冷暖房と暮らし方」と題して、快適性と健康とのバランスをどう考えるかについて、温熱環境の目標設定の考え方、また、すまいにおける睡眠、浴室、トイレなどの環境と健康の関係について解説されました。

講演後は、会場からの質問への応答を交え、盛況のうちに終了しました。

頭部外傷予防講習会を開催

●総合保健体育科学センター

総合保健体育科学センター、教育推進部学生支援課課外活動係及び体育会の共催により、9月20日(水)、野依記念学術交流館において、頭部外傷予防講習会が開催され、106名の参加がありました。今回開催された頭部外傷予防講習会は、総合保健体育科学センターが今年度から開始した体育会への3つの安全講習会（その他に、トレーニング



講習会の様子

ルーム使用に関する安全講習会、熱中症予防に関する安全講習会)の1つで、脳震盪発生のリスクが高い運動種目のクラブに所属する1年生部員と上級生の代表者を対象に、脳震盪の危険性や脳震盪発生時の対応方法、競技復帰までのプロセスについて学習することを目的としています。

講習に先立ち、水野貴正総合保健体育科学センター講師から安全講習会開催の趣旨について説明がありました。続いて、講習会講師である神鳥亮太株式会社豊田自動織機シャトルズヘッドアスレティックトレーナーからは、ラグビートップリーグでの取り組みを中心に動画や写真を多数交え脳震盪への適切な対応の重要性の説明がありました。参加者からは、「今までに数回脳震盪になったことがあるが、脳震盪に関する講習を受講するのは初めてで、その危険性を十分理解することができた」、「早速クラブ内で脳震盪への対応方法を検討していきたい」などの感想が寄せられました。

このような安全講習会を通して学生自身が正しい知識を獲得することで、課外活動における重大事故の予防が期待されます。また、来年度以降も対象クラブ・学年を拡大しての継続開催が期待されます。

グローバルディスカッション2017を開催

●教育学部附属中・高等学校



ディスカッションの様子

教育学部附属中・高等学校は、8月21日(月)、22日(火)の両日、グローバルディスカッション2017を開催しました。「自由主義経済と保護主義経済の衝突－日本はどうあるべきか－」をテーマとし、本学から留学生12名及び日本人学生1名がファシリテーターTAとして、高校生のディスカッションをサポートしました。この企画は、スーパーグローバルハイスクール(SGH)校とアソシエイト校で行なわれていましたが、成果を普及するため今回からSGH校以外の高校(金城学院高等学校、名古屋国際高等学校、神戸大学附属中等教育学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校)も参加しました。難しいテーマにもかかわらず、最終日には各班が自分たちの考えを英語で発表しました。まとめとして2日間コーディネートされた土井康裕経済学研究科准教授から、参加した高校生に対してメッセージが述べられました。

光粒祭を開催

●教育学部附属中・高等学校



受付の様子

教育学部附属中・高等学校は、9月15日(金)、16日(土)の両日、学校祭を開催しました。附属学校の学校祭は「光粒祭」という名称で親しまれています。「こうりゅうさい」の意味は、多くの人たちと交流したい、という「交流」と、生徒一人一人が学校祭に向けて準備し、その過程を経て「光り輝く粒」となり、学校全体が大きな光を放つ、という願いと意思が込められています。

1日目は校内公開、2日目に一般公開があり、雨天にも関わらず一般公開日に2,600名を超える方が本校を訪れました。中学生が「演劇」に、高校生が「HR企画」にクラス単位で取り組みます。展示には授業作品、PTA作品、SSH・SGHプロジェクトのポスターセッション、本校が誇る課題研究「総合人間科」の発表等があり、来校された方が盛りだくさんの内容を堪能しました。保護者も模擬店や警備で関わり、生徒とともに光り輝いた2日間でした。

第69・70回名古屋大学博物館コンサート(NUMCo)を開催

●博物館



「魅惑の歌声」の様子(左から井原妙子氏、井原義則氏、岡戸弘美氏)

博物館は、9月20日(水)と10月14日(土)、展示室において、NUMCo「アイルランド紀行」と「魅惑の歌声」を開催しました。アイルランドはイギリスの西にある小さな島です。フィドル(バイオリン)、イーリアンパイプス(バグパイプの一種)、コンサーティーナ(ボタン鍵盤のアコーディオン)とギターを組み合わせ、全9曲を演奏しました。「バイオリンは歌い、フィドルは踊る」と言われるように、194名の聴衆は体を揺らしたり足で拍子をとったり、楽しい1時間を過ごしました。魅惑の歌声では、テノールとソプラノにピアノの伴奏が付いて全14曲を熱唱しました。アンコールでは「千の風になって」が歌われ、202名の聴衆も誰かを思い出しながら、風になった気分を味わったようです。70回を迎えたNUMCoですが、100回、200回と長く皆様に愛されるように、色々な企画を考えていきたいと思えます。

名大を表敬訪問された方々 [平成29年7月16日～10月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
7月21日	インドネシア	インドネシア経済担当調整副大臣ほか5名の来訪	表敬訪問
7月27日	イスラエル	イスラエル大使館 文化・科学技術担当官の来訪	表敬訪問
7月31日	中国	吉林大学物理学院 TAQ クラス・夏季研修受け入れに伴う、吉林大学化学学院教授ほか13名の来訪	表敬訪問
8月9日	ウズベキスタン	ウズベキスタンスポーツ大臣ほか13名の来訪	ウズベキスタンと名古屋市のホストタウン事業スポーツ交流に伴う今後の交流活動について懇談
8月10日	アメリカ	アクロン大学学長ほか1名の来訪	アクロン大学ロースクールと本学法科大学院の共同サマースクール開催御礼
9月22日	オーストラリア	西オーストラリア大学副学長ほか1名の来訪	表敬訪問及び農学・物理学分野における新たなコラボレーションに関する懇談
9月25日	中国	中国農林省訪日団より18名の来訪	表敬訪問
9月27日	アメリカ	在名古屋アメリカ領事館首席領事ほか2名の来訪	新首席領事着任の挨拶、アメリカの教育・研究機関との共同研究、起業家教育に関する懇談、アメリカ留学経験者との懇談
10月2日 ～3日	中国	吉林大学于院士ほか1名の来訪	名大巡講のための来日
10月12日	韓国	羅 鍾一元駐日大使ほか4名の来訪	大学院法学研究科における講演会開催に伴う表敬訪問

新たに締結した学術交流協定 [平成29年7月16日～10月15日]

大学間学術交流協定

締結日	国/地域	大学/研究機関名
7月17日	香港	香港城市大学
7月18日	オランダ	トゥエンテ大学

部局間学術交流協定

締結日	国/地域	大学/研究機関名	部局名
7月3日	イギリス	エジンバラ大学理学部 ※	理学部・大学院理学研究科
8月3日	タイ	チュラロンコン大学テクノプレナーシップ・イノベーション マネジメントプログラム	未来社会創造機構
8月10日	タイ	チュラポーン医科大学	医学部・大学院医学系研究科
9月7日	台湾	中央研究院化学研究所	トランスフォーマティブ生命分子研究所
9月19日	ミャンマー	ヤンゴン大学	大学院法学研究科・大学院多元数理科学研究科

※名大トピックス No. 291 (8月号) からの追加

構成員を対象とした研修 [平成29年7月16日～10月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
6月18日(日)～ 9月29日(金)	平成29年度名古屋大学職員中期海外研修	本学の世界的研究拠点の形成や国際ネットワークの構築を推進するために、本学の海外拠点、本学と協定を結んでいる協定校等において実務研修を実施することにより、職員の実践的な国際対応力の向上を図ることを目的とする	1名
7月19日(水)、 9月26日(火)、 28日(木)	ハラスメント防止研修	ハラスメントに関する基礎知識や対応方法を学び、ハラスメントの防止意識を高めるため	670名
7月20日(木)、 21日(金)	平成29年度東海地区国立大学法人等 新任課長補佐研修	東海地区の国立大学法人等機関の新任課長補佐に対し、役割認識と、職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする	18名
7月20日(木)、 21日(金)	平成29年度国立大学法人等部課長級 研修	国立大学法人等の部長級、課長級職員を対象に、大学運営の基本的知識の修得と幹部職員としての能力の向上を図る	5名
7月27日(木)、 28日(金)	平成29年度東海地区国立大学法人等 係長研修	東海地区の国立大学法人等機関において、係長(専門職員)に昇格した職員に対して、職場リーダーとして必要なスキルを修得させるとともに、OJTの重要性を理解させ、係長(専門職員)としての役割を担うために必要な知識を修得させることを目的とする	23名
8月3日(木)、4日(金)、 7日(月)、10日(木)、 9月1日(金)、4日(月)、 11日(月)、25日(月)、 28日(木)、10月2日(月)、 4日(水)	研究室訪問型ハラスメント防止研修	ハラスメントに関する基礎知識や対応方法を学び、ハラスメントの防止意識を高めるため	210名
8月25日(金)	平成29年度東海・北陸地区国立大学 法人等人事担当者(係長級以下) 研修	東海・北陸地区の国立大学法人等機関の人事担当者(係長級以下)研修に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする	5名
9月6日(水)～ 8日(金)	平成29年度東海・北陸地区国立大学 法人等技術職員合同研修 (複合領域コース)	東海・北陸地区国立大学法人等に所属する技術職員に対し、その職務遂行に必要な専門的知識および技術等を修得させ、技術職員としての資質の向上を図るとともに職員相互の交流に寄与する事を目的とする	2名
9月7日(木)、 8日(金)	平成29年度東海地区国立大学法人等 中堅職員研修	東海地区の国立大学法人等機関の中堅職員に対し、役割認識と、職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする	15名
9月15日(金)	平成29年度名古屋大学・岐阜大学 コミュニケーション力向上研修 (第1回)	国立大学法人の中核的職員として、業務を円滑に遂行するために必要なコミュニケーションスキルの向上を図ること、及び、人的ネットワークの形成を図ることを目的とする	29名
9月19日(火)	NUCT 利用 講習会	1. 初めての利用コース	授業・研修等の担当者で、NUCTを利用される方を対象に、NUCTを理解し積極的に利用して頂くための講習会
		2. 紙レポート連携コース	
9月19日(火)、 20日(水)	平成29年度東海地区国立大学法人等 目的別(女性活躍推進)研修	東海地区の国立大学法人等機関の事務職員に対し、女性職員活躍推進に向けた役割認識や職務に必要な知識及び能力を付与することにより、上位職へキャリアアップしていくためのモチベーションの維持・向上を図ることを目的とする	7名
9月20日(水)～ 22日(金)	平成29年度名古屋大学技術職員研修 (装置開発コース)	本学の技術職員に対し、その職務に必要な専門的知識及び技術を修得させ、技術職員の資質の向上と応用能力の育成を図ることを目的とする	8名
9月22日(金)	農学部・生命農学研究科事務部 説明会	農学部教職員向け事務部各係担当者による業務内容の説明を行う。説明会での意見を踏まえて、さらに業務の見直し等を検討し事務業務の質向上をはかる	92名
9月28日(木)、 29日(金)	平成29年度東海地区国立大学法人等 リーダーシップ研修	東海地区の国立大学法人等機関の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員の資質向上を図ることを目的とする	2名
9月29日(金)、 10月2日(月)、 3日(火)、4日(水)、 5日(木)、6日(金)	大学院生命農学研究科改組について の説明会(学部生・大学院生対象)	平成30年4月大学院生命農学研究科改組にあたって、大学院を構成する「専攻」の名称と構成・内容を、学部生・大学院生に説明する。留学生を対象にした英語での説明会も実施する	200名
10月11日(水)	平成29年度名古屋大学パートタイム 勤務職員等研修(第1回)	パートタイム勤務職員(契約職員を含む)に対し、大学職員としての心構えを自覚させるとともに、業務遂行上必要な基礎知識の修得及び能力の向上を図ることを目的とする	50名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
1 就業体験 職場のあとは…家庭でも 田中万葉さん本学3年生が愛知県が開いた就業体験で、職場だけでなく、働く女性の家庭にまでついていく研修を受けた	9.16 (土)	中日 (夕刊)
2 第32回保団連 医療研究フォーラム「一人ひとりの尊厳を守る社会をめざして—医療人に求められること」開催：10月8日 益川敏英本学特別教授と諏訪中央病院名誉院長鎌田 實氏が対談	9.16 (土) 9.29 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
3 講演会「その時本当に大切な人を守れますか?～明日、後悔しないために～」開催：16日 福和伸夫減災連携研究センター教授がパネルディスカッションに参加	9.16 (土)	中日 (朝刊)
4 川合伸幸情報学研究科准教授、中田龍三郎同研究員らのグループは、鏡の前で食べると、一人の食事もおいしく感じるとの調査結果を発表	9.17 (日)	朝日 (朝刊)
5 名古屋大学レクチャー開催：9月16日 岡崎恒子本学特別教授、篠崎一雄本学特別教授が講演	9.17 (日)	中日 (朝刊)
6 グローバル愛'S：スキ 発想を形にする技術力 レイト・エマニュエル・ランガット工学研究科講師	9.17 (日)	中日 (朝刊)
7 マナビバ：大学 工学系大学に専用スペース 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了が「産業界からの強い要請や少子化の影響もある、女子学生を増やす方針」と語る	9.17 (日)	中日 (朝刊)
8 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授、自然科学研究機構基礎生物学研究所などは、メダカの色覚が季節によってダイナミックに変化することを発見	9.17 (日)	日経 (朝刊)
9 小田洋一本学名誉教授と富山大学などの研究チームは、鱈食魚の「利き手」が決まる仕組みの一端を解明へ	9.17 (日) 9.26 (火)	毎日 (朝刊) 日刊工業
10 佐々木成江理学研究科准教授と佐々木妙子さん博士後期課程3年生らの研究グループがヒト細胞におけるミトコンドリア DNAの維持機構を発見	9.18 (月)	日刊工業
11 未来を見に行こう こども会議編：基礎研究、重ねて大きな発明 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授は「分子はよくにとって子ども、みんなに使ってもらって、活躍してもらいたいです」と語り、東山哲也同教授は「『卵細胞と精細胞が出会う受精のシーンを見たい』という思いから20年以上研究を続けてきました」と語る	9.18 (月)	朝日小学生
12 科学技術振興機構理事長濱口道成前総長は土木や機械などものづくりの分野で、日本の学術論文のシェアが軒並み低下していることについて「影響が出るのは人材だ」と語る	9.18 (月)	日経 (朝刊)
13 記者ノート：寄り道が窮地を救う NIE 全国大会名古屋大会で講演した天野 浩未来材料・システム研究所教授の研究が取り上げられる	9.18 (月)	毎日 (朝刊)
14 そここ聞きたい 長引く引きこもり対策は？ ほしい社会へのステップ 愛知教育大学准教授川北 稔氏本学博士後期課程単位取得退学	9.18 (月)	毎日 (朝刊)
15 紙つづて：伝統とロボット 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	9.19 (火)	中日 (夕刊)
16 競い合う大学(1)：産学連携「大型化」で成果出す 企業との共同・受託研究費の受入額で本学は7位	9.19 (火)	日刊工業
17 中日文化センター講座 文学：ポスト印象派の巨匠たち 栗田秀法人文学研究科教授、ヴィクトル・ユゴー「レ・ミゼラブル」の魅力の秘密に迫る 加藤靖恵人文学研究科准教授	9.20 (水)	中日 (夕刊)
18 大学院合同ガイダンス開催：10月7日 本学も参加	9.20 (水)	中日 (朝刊)
19 連続憲法講座「いまこそ憲法」開催：10月7日 愛敬浩二法学研究科教授が講演	9.20 (水)	中日 (朝刊)
20 論点スペシャル：手術死問題 群大は変わったか 上田裕一本学名誉教授 改革 地道な継続大切	9.20 (水)	読売
21 尾崎紀夫医学系研究科教授らのグループは、統合失調症・自閉スペクトラム症の発症リスクにミクログリア特異的遺伝子CX3CR1上の稀なゲノム変異が関与していることを同定	9.20 (水)	日刊工業
22 三好由純宇宙地球環境研究所准教授、小路真史同特任助教のグループは、宇宙のプラズマから電波が生まれる瞬間の特定に成功	9.21 (木)	日刊工業
23 ノーベル賞 誰の手に 日本人の4年連続受賞は ノーベル化学賞の候補者に山本 尚本学名誉教授の名前が挙がる	9.21 (木)	朝日 (朝刊)
24 明治安田こころの健康財団助成：中野まみさん本学大学院生	9.21 (木)	中日 (朝刊)
25 MEDICAL HEALTH：「健康経営」は優良企業の条件 医療法人尚仁会ステーションクリニック理事長木下水信氏元本学職員	9.21 (木)	中部経済
26 王座戦一次予選1回戦：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利	9.21 (木)	朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
27 坪木和久宇宙地球環境研究所教授は、岐阜大学の研究グループが台風の進路の新しい解析方法を開発したことについて「渦位という高度な概念を巧みに利用した画期的な方法」と語る	9.21 (木)	読売
28 名古屋大学人の会連続セミナー「立憲デモクラシーの危機を越えて」開催：10月9日	9.22 (金) 10.11 (水)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
29 電子情報通信学会創立100周年記念事業東海支部講演会開催：26日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	9.22 (金) 9.23 (土)	中日 (朝刊) 日刊工業
30 市民公開講座 中高年の生活習慣病対策と認知症予防：10月21日 大幸キャンパスで行われる	9.22 (金)	毎日 (朝刊)
31 今さら聞けない：スロー地震 岩盤がゆっくりずれる 本学のグループが1997年、GPS データを解析し、大分県と愛媛県の間で1年近くスロースリップが続いていることを発見	9.23 (土)	朝日 (朝刊)
32 本学や国立情報学研究所などのグループが基礎的読解力について、多くの中学生の読解力に問題があることが分かったと発表	9.23 (土)	中日 (朝刊)
33 時のおもりの電磁パルス弾開発の愚 池内 了本学名誉教授	9.23 (土)	中日 (朝刊)
34 第70回中部合唱コンクール：金賞 混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ	9.24 (日)	朝日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
35 ノーベル街道 今年も？ 有力候補続々 山本 尚本学名誉教授	9.24 (日)	中日 (朝刊) 読売
36 第20回全日本学生ライダー新人競技大会開催：25日 細木雄斗さん本学2年生、鈴木悠太郎さん同2年生が出場	9.25 (月)	朝日 (夕刊)
37 政治断簡：きっとベアテに怒られる ジェンダー・リサーチ・ライブラリの入口の白壁に記されたフランス人権宣言、女性の権利宣言などが取り上げられる	9.25 (月)	朝日 (朝刊)
38 核心：御嶽山噴火 3年 火山研究者なお不足 本学は今年の夏、長野県の支援を受け、同県木曾町役場の三岳支所内に現地研究所を開設した	9.25 (月)	中日 (朝刊)
39 第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会開催：23日 本学は選考会に参加	9.25 (月)	読売
40 忍久保洋工学研究科教授らは、お椀型の曲面構造をもつ反芳香族化合物の合成に成功	9.25 (月)	日刊工業
41 Girls be ambitious! みんな リーダーになろうよ 大友志穂さん教育学部附属高等学校1年生は「TEDxNagoyaU」に登壇し「同世代に自分のことと覚えてもらえるよう、発信し続けたい」と語る	9.26 (火)	朝日 (夕刊)
42 第35回博物館企画展「ムシの世界」開催：7月25日～10月21日	9.26 (火) 10.10 (火)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
43 大村秀章知事が「あいち自動運転推進コンソーシアム」の第1回総会を10月20日に本学で開くと発表	9.26 (火)	朝日 (朝刊)
44 紙つづて：FD 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	9.26 (火)	中日 (夕刊)
45 なごや腎臓病教室開催：10月8日 医学部附属病院で行われる	9.26 (火)	中日 (朝刊)
46 本学は材料デバイス研究について、学内外、産業界から人材を集めた研究組織を立ち上げ、文部科学省が2018年度に創設する卓越大学院事業に申請する	9.26 (火)	日刊工業
47 社説：御嶽山噴火3年 火山研究の裾野広げよ 本学も現地研究所を開設	9.27 (水)	中日 (朝刊)
48 解説スペシャル：南海トラフ「予知」見直し 山岡耕春環境学研究科教授は海底観測網が整備されれば「緊急地震速報が5～10秒程度早まる可能性がある」と語る	9.27 (水)	読売
49 森川高行未来社会創造機構教授は「自動運転が実用化されると渋滞が減り、今の名古屋中心部を走るような大きな道路は不要になる」と語る	9.27 (水)	日経 (朝刊)
50 棋聖戦一次予選：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利	9.28 (木)	朝日 (朝刊)
51 電子情報通信学会創立100周年記念事業東海支部講演会開催：26日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演し「日本の産業施策に合った技術開発を進めることで、実用に役立てたい」と語る	9.28 (木)	中部経済
52 科学の森：4年連続の受賞なるか ノーベル化学賞の候補者に山本 尚本学名誉教授の名前が挙がる	9.28 (木)	毎日 (朝刊)
53 名古屋商工会議所は次期文化・観光委員長に株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生を選出	9.28 (木)	中日 (朝刊)
54 中日新聞「リンクト」：超高齢社会の病院はどう変わる？「ずっと安心」を実現するために 一般社団法人愛知県病院協会会長浦田士郎氏本学卒業生	9.28 (木)	中日 (朝刊)
55 本学と東京大学の研究で、渡り鳥のオオミズナグドリがGPSを内蔵しているかのように自分の位置を把握している可能性があることが分かった	9.28 (木)	朝日 (夕刊)
56 第76期将棋名人戦C級2組 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が4連勝	9.28 (木)	朝日 (夕刊)
57 講座「『今』に活かせ、心理学。」開催：11月5日 金井篤子教育発達科学研究科教授が講演	9.29 (金)	読売
58 第52回学生部書玄競書大会：1部 毎日新聞社賞 野田結愛さん教育学部附属高等学校2年生、2部 毎日新聞社賞 野田結愛さん教育学部附属高等学校2年生	9.29 (金)	毎日 (朝刊)
59 本間道夫理学研究科教授らはナトリウムイオンで駆動される細菌の超分子ナノマシン回転モーターの構造を解明	9.29 (金) 10.4 (水)	科学新聞 日刊工業
60 病魔が阻んだノーベル賞 故・岡崎令治元本学教授と岡崎恒子同特別教授の研究「岡崎フラグメント」が取り上げられ、篠崎一雄同特別教授は「日本人の相次ぐ受賞は、日本の独創的な研究が世界で評価されているから、岡崎先生のように、ノーベル賞級の研究をしながら受賞していない科学者もいることを知ってほしい」と語る	9.30 (土)	中日 (夕刊)
61 藤井四段 飛躍の1年 史上最年少で快進撃 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が「将棋がもっと強くなりたいという目標を第一に、1年目以上に成長できるようにがんばりたい」と語る	9.30 (土)	読売
62 デビュー1年 名実両取り 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が「将棋がもっと強くなりたいという目標を第一に、1年目以上に成長できるようにがんばりたい」と語る	10.1 (日) 10.2 (月)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
63 あすからノーベル賞発表：広報職員 舞台裏で奔走 峯田典幸本学職員は「受賞者が出るたびに職員の経験値が上がった」と語る	10.1 (日)	中日 (朝刊)
64 日本学術会議新会員：高村ゆかり環境学研究科教授	10.1 (日)	中日 (朝刊)
65 病院の実力：腹部大動脈瘤 負担少ない治療普及 医学部附属病院の実績が取り上げられる	10.1 (日)	読売
66 いただきます うな重×将棋会館 勝負メシ 魂の対局演出 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.1 (日)	毎日 (朝刊)
67 ノーベル賞受賞者－未来への提言「学術研究」立て直す政策を 野依良治本学特別教授は「受賞から16年。改革を訴えてきたが、実現率は10%」と語り、天野 浩未来材料・システム研究所教授は「産業界と学術界の双方で活躍する人材を育成したい」と語る	10.2 (月)	日刊工業
68 国立大学 どう再編するか 自治体の「組合」を応用 磯田副理事・アジアサテライトキャンパス学院教授	10.2 (月)	日経 (朝刊)
69 備える3.11から 災前の策 第144回次世代の豪雨予想 坪木和宇宙地球環境研究所教授 航空機から「強さ」直接観測	10.2 (月)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年9月16日～10月15日]

記事	年月日	新聞等名
70 将棋日本シリーズ テーブルマークこども大会東海大会：10月1日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が登場	10. 2 (月)	中日 (朝刊) 他2社
71 藤井聡太を生んだもの (1) 中学生棋士、誕生 棋界の枠を超えた吉報 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10. 2 (月)	中日 (夕刊)
72 データで見る東海百景：愛知は「将棋王国」 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生プロデビューから1年 指導員、全国最多	10. 2 (月)	毎日 (夕刊)
73 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生 プロデビュー 1年を振り返る 藤井四段「まだ伸び盛り」	10. 2 (月)	日経 (夕刊)
74 どうなる日本の科学～ノーベル賞受賞者に聞く～ (2)：産学連携で巻き返しを 天野 浩未来材料・システム研究所教授	10. 3 (火)	日刊工業
75 近藤孝男本学名誉教授は、2017ノーベル医学・生理学賞を受賞した米国ブランダイス大学名誉教授ジェフリー・ホール氏ら3人について「彼らの仕事がなければ私の研究はなかったかも」と語る	10. 3 (火)	中日 (朝刊)
76 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館名古屋講演会開催：21日 経済学部カンファレンスホールで行われる	10. 3 (火)	中日 (朝刊)
77 紙つづて：地域連携 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	10. 3 (火)	中日 (夕刊)
78 藤井聡太を生んだもの (2)：家族① 祖母宅 運命の出合い 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10. 3 (火)	中日 (夕刊)
79 どうなる日本の科学～ノーベル賞受賞者に聞く～ (3)：若手は未知への挑戦を 野依良治本学特別教授	10. 4 (水)	日刊工業
80 小澤正直情報学研究科特任教授は同教授が有効性を証明した干渉計方式で重力波をとらえた「LIGO」のチームが2017年ノーベル物理学賞を受賞したことについて「数学者として、華々しい歴史的一幕に貢献できたことに感激している」と語る	10. 4 (水)	中日 (朝刊)
81 杉山 直理学研究科教授は2017年ノーベル物理学賞を重力波望遠鏡「LIGO」のチームが受賞したことについて「重力波を中心にテーマに実験的、理論的なさまざまな角度から宇宙の成り立ちを研究したい」と語り、西澤篤志基礎理論研究センター特任助教は「研究が社会に認知され、さらに進むことで、今まで見えなかった宇宙の姿が見えてくる」と語る	10. 4 (水)	中日 (朝刊) 読売
82 本学や岐阜大学、愛知医科大学などの研究者13人が2011年の東京電力福島第一原発事故で放出された放射性物質をめぐり、各地の子どもたちの乳歯を分析して影響を調べる全国初の民間測定所を年内にも岐阜市内で発足させる	10. 4 (水)	中日 (朝刊)
83 本学ワンダーフォーゲル部のOBら19人が女性旅行家イザベラ・バードが歩いた峠道を中心にその旅路をたどり、紀行文やエッセーをまとめ書籍「ザック担いでイザベラ・バードを辿る」を出版	10. 4 (水)	中日 (朝刊)
84 ひと@あいち：「男子チア」を常識に「名古屋 SPIDERS」本学など5大学の男子学生27人と女子学生マネジャー4人が所属	10. 4 (水)	毎日 (朝刊)
85 藤井聡太を生んだもの (3)：家族② 信じ、見守った祖父 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10. 4 (水)	中日 (夕刊)
86 藤吉好則細胞生理学センター客員教授は2017年ノーベル化学賞を受賞したクライオ電子顕微鏡を開発した3名について2013年1月に本学で行われた同センターの発足を記念する国際会議にヨアヒム・フランク氏とリチャード・ヘンダーソン氏が出席したことを紹介し「これまでの貢献度を考えると、彼らが受賞するのは当然」と語る	10. 5 (木)	読売 他2社
87 藤吉好則細胞生理学センター客員教授は2017年ノーベル化学賞を受賞したクライオ電子顕微鏡を開発した3名について「クライオ電子顕微鏡を使うことで、薬の標的になる膜たんぱく質の詳細な立体構造が次々に分かってきた」と語る	10. 5 (木)	朝日 (朝刊) 他3社
88 文学部・文学研究科同窓会「秋季サロン」講演会「日本人の生きる力」開催：21日 文学部2階237講義室で行われる	10. 5 (木) 10.13 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
89 環境医学研究所市民公開講座「神経難病の克服に向けて」開催：21日 野依記念学術交流館2階で行われる	10. 5 (木)	中日 (朝刊)
90 藤井聡太を生んだもの (4)：家族③ 稽古事に熱心な祖母 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10. 5 (木)	中日 (夕刊)
91 ロボット革命：本学や産業技術総合研究所などが参画する共同研究体がロボット介護機器の製品化で開発者が参照できる手引きを2017年度をめどに策定する	10. 6 (金)	日刊工業
92 本学などでも治験が行われる iPS 細胞を活用した研究で見つかった難病治療薬の初の治験が京都大学で行われた	10. 6 (金)	毎日 (朝刊) 他4社
93 ニュースな科学：自動運転 地図が要に 車同士で即時にやり取り 高田広章未来社会創造機構教授は「地図がネットを通じ自動で更新されるようになれば、自動運転システムのコスト減にもつながる」と語る	10. 6 (金)	日経 (朝刊)
94 考える選ぶ 10.22衆院選あいち：保守対保守が潮流 後 房雄法学研究科教授	10. 6 (金)	中日 (朝刊)
95 地球教室「博物館の収蔵庫と野外で深海の地層と化石を調べよう！」開催：11月11、12日 初日は博物館収蔵庫、2日目は知多半島に出かけて学ぶ	10. 6 (金) 10.13 (金)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
96 附属図書館医学部分館ミニ企画展「漢方の世界」開催：7月3日～12月27日	10. 6 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
97 語り継ぐ戦争 (48)：シベリア後も苦労の父 俳優竹下景子氏のご尊父が篤志家の援助で名古屋高等商業学校に進学	10. 6 (金)	朝日 (朝刊)
98 愛知の若者 海外を敬遠？ 国内が便利 親の影響も？ 海外旅行サークル「H.O.T.」代表可児 匠さん本学3年生は「国内大手でない」と語る	10. 6 (金)	朝日 (夕刊)
99 藤井聡太を生んだもの (5)：家族④ 一歩引いて支える母 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10. 6 (金)	中日 (夕刊)
100 本学発ベンチャーヘルスケアシステムズは、ヒトの精液を専門で分析する事業を始めた	10. 7 (土)	中部経済
101 第11回朝日杯将棋オープン戦1次予選決勝：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利し、2次予選進出を決めた	10. 7 (土)	朝日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
102 サイエンス View：ノーベル自然科学3賞 近藤孝男本学名誉教授は、2017ノーベル医学生理学賞を受賞した米国ブランドアイズ大学名誉教授ジェフリー・ホール氏ら3人について「遺伝子を特定した彼等の成果が起爆剤になり、研究の裾野が広がった」と語る	10. 8 (日)	読売
103 ジアディ・アスラトランスフォーマティブ生命分子研究所特任助教は、植物の成長に必要な酵素や二酸化炭素、水の出入りを担う気孔の数を増やす作用だけを持つ化合物合成技術を開発した	10. 9 (月)	日刊工業
104 第32回保団連 医療研究フォーラム開催：8日 益川敏英本学特別教授は諏訪中央病院名誉院長鎌田 実氏との対談で「子どもは自分で育つ能力がある。最初に手助けをする以外は自由にしてあげた方がよい」と語る	10. 9 (月)	中日 (朝刊)
105 大学入試に英語民間試験 合格判定には適さず 野口裕之本学名誉教授	10. 9 (月)	日経 (朝刊)
106 藤井聡太を生んだもの (6)：家族⑤ 昔ながらの結び付き 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.10 (火)	中日 (夕刊)
107 紙つぶて：磁石が熱い 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	10.10 (火)	中日 (夕刊)
108 第3期覇王戦段位別予選・四段戦：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利し、本戦トーナメントに進出	10.10 (火) 10.11 (水)	毎日 (夕刊) 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
109 本学発ベンチャー株式会社ヘルスケアシステムズが展開する尿検査の一般向けサービスが、利用者を伸ばしている	10.11 (水)	中部経済
110 中部発ベンチャーの軌跡 (上)：本学発ベンチャー株式会社 U-Map が「窒化アルミニウムウィスカー」の量産を目指す	10.11 (水)	日経 (朝刊)
111 あいち女性の活躍促進セミナー開催：4日 東村副理事・生命農学研究科教授が講演し「適材適所で人材を配置することが企業の利益にもつながる」と語る	10.11 (水)	中日 (朝刊)
112 「丸八会」開催：10日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が同会より顕彰された	10.11 (水)	中日 (朝刊)
113 学校のリスク 若手が斬る 研究や提言活動を通じて学校現場の問題の解決に取り組む 内田 良教育発達科学研究科准教授	10.11 (水)	日経 (夕刊)
114 藤井聡太を生んだもの (7)：ふみもと教室① 競い合う子どもたち 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.11 (水)	中日 (夕刊)
115 名古屋大学オープンイノベーション拠点開所式：11日 松尾総長は「優れた人材が新たな価値を生み出すベンチャーのエコシステムを作りたい」と語る	10.12 (木)	日刊工業 中日 (朝刊)
116 人文学研究科設立記念式典：11日 佐久間淳一人文学研究科教授は「多文化共生に向けた異文化理解力や人間や社会への洞察を得ることこそが、人間の本質を考える人文学に課された使命」と挨拶をした	10.12 (木)	中日 (朝刊)
117 特別対談 佐藤天彦名人×株式会社大和証券グループ本社社長中田誠司氏 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が取り上げられる	10.12 (木)	毎日 (朝刊)
118 600校の生き残り戦略 私大トップに聞く⑩：情報発信強化で存在感 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	10.12 (木)	日刊工業
119 「藤井フィーバー」に沸く将棋界 プロ2年目 実力きりり 刺激しあい高い目標、優勝や昇級も 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.12 (木)	朝日 (夕刊)
120 藤井聡太を生んだもの (8)：ふみもと教室② 定跡をみっちり 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.12 (木)	中日 (夕刊)
121 竹岡敬和工学研究科准教授と渡邊健太本学大学院生は、高分子材料の強度と透明性を両立させる技術を開発	10.13 (金)	日刊工業
122 医学部附属病院などで難病「バージャー病」の患者に自分の骨髄細胞を移植する再生医療の臨床試験を開始すると発表	10.13 (金)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
123 経済教室：瀬戸際の多国間主義⑩ 温暖化対策、米離脱も強固 自治体・企業、国家超え連携 高村ゆかり環境学研究科教授	10.13 (金)	日経 (朝刊)
124 ニュースな科学：政府、地震対策見直し 南海トラフ全域で警戒 鷲谷 威滅災連携研究センター教授は「不意打ちで来る方が可能性は高い」と語る	10.13 (金)	日経 (朝刊)
125 フォーラム「血液疾患」開催：28日 清井 仁医学系研究科教授が「血液がんとはリンパ系と骨髄系の基本理解」をテーマに講演	10.13 (金)	中日 (朝刊)
126 「僥倖」「望外」小学生から新聞で「勉強」 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.13 (金)	読売
127 第76期名人人生順位戦C級2組 5回戦：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利し、開幕から5連勝	10.13 (金)	毎日 (朝刊)
128 中部発ベンチャーの軌跡 (下)：再生医療で世界へ J-TEC 大企業と成長追求 上田 実本学名誉教授の協力を得て、株式会社ニデックを中心に地元企業の出資で誕生	10.13 (金)	日経 (朝刊)
129 藤井聡太を生んだもの (9)：ふみもと教室③ 無敵の詰将棋 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.13 (金)	中日 (夕刊)
130 バイオカフェ in 県図書館ー研究者とバイオについて語り合いませんか？開催：28日 佐塚隆志生物機能開発利用研究センター准教授	10.14 (土)	中日 (朝刊)
131 新聞週間2017：新聞は毎日読む。でも、自分の記事は恥ずかしい 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.14 (土)	朝日 (朝刊)
132 川崎猛史理学研究科助教と大阪大学のグループは、過冷却水の粘度が温度の低下に伴い急速に上昇する原因をコンピュータシミュレーションで明らかにした	10.15 (日)	日経 (朝刊)
133 先端人：物質結ぶ化学の「仲人」触媒反応開発 波多野学工学研究科准教授	10.15 (日)	朝日 (朝刊)
134 進学か棋士一筋か 藤井四段 15の春への長考 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	10.15 (日)	読売
135 書籍「中学生棋士」谷川浩司著 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が取り上げられている	10.15 (日)	読売
136 よみうり堂本：著者来店 書籍「死ぬほど読書」丹羽宇一郎本学名誉博士著	10.15 (日)	読売
137 書籍「100語でわかる子ども」古橋忠晃総合保健体育科学センター准教授、番場 寛訳	10.15 (日)	朝日 (朝刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月20日(月)～3月24日(土)
 場 所：博物館野外観察園
 セミナーハウス2階
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：土・日・祝日、
 12月29日～1月3日
 (3月24日臨時開館)
 入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示
「野外観察園のボタニカルアート II 冬と春の植物」



[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

11月22日(水)
 場 所：博物館野外観察園、
 博物館2階実験室
 時 間：13:00～15:00
 参 加 費：無料

博物館野外観察園見学会

案 内：西田佐知子 (博物館准教授)、野崎ますみ (博物館研究員)
 内 容：季節の花をみながら自然を学び、電子顕微鏡でミクロの自然を
 見る (雨天決行)

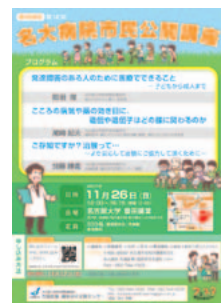


[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

11月26日(日)
 場 所：豊田講堂
 時 間：13:00～15:15
 定 員：500名
 参 加 費：無料

第12回名大病院市民公開講座

講演題目：「発達障害のある人のために医療でできること
 ー子どもから成人まで」
 講 演 者：岡田 俊 (医学部附属病院准教授)
 講演題目：「こころの病気や薬の効き目に、遺伝や遺伝子は
 どの様に関わるのか」
 講 演 者：尾崎紀夫 (医学系研究科教授)
 講演題目：「ご存じですか？ 治験って…
 ーより安心して治験にご協力して頂くためにー」
 講 演 者：加藤勝義
 (医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター講師)



[問い合わせ先]
 医学部附属病院
 先端医療・臨床研究支援センター
 052-744-1956

11月30日(木)
 場 所：アジア法交流館2階
 アジアコミュニティフォーラム
 時 間：13:15～16:00
 対 象：一般
 参 加 費：無料

日本学術会議中部地区会議学術講演会
「ジェンダーと名古屋大学」

講演題目：「ジェンダー問題に関する日本学術会議の取り組み」
 講 演 者：三成美保氏 (奈良女子大学副学長)
 講演題目：「フィールド研究におけるジェンダー」
 講 演 者：竹中千里 (生命農学研究科教授)
 講演題目：「ジェンダーと政治、家族を考える」
 講 演 者：武田宏子 (法政国際教育協力研究センター教授)
 内 容：開会挨拶 (松尾総長)、主催者挨拶 (戸田山和久情報学研究科教授)、科学者との懇談会活動報告 (中部地区科学者懇談会幹事長 松田正久氏)、学術講演、閉会挨拶 (和田 肇法学研究科教授)



[問い合わせ先]
 研究協力部研究支援課 052-789-2039

11月30日(木)
 場 所：日本経済新聞社名古屋支社3階
 日経栄カンファレンスルーム
 (名古屋市中区)
 時 間：18:30～20:00
 定 員：100名
 対 象：一般
 参 加 費：無料

国際経済政策研究センター・キタン会
第26回名古屋ビジネスセミナー

講演題目：「見たくないことも直視し企業の南海トラフ地震対策を！」
 講 演 者：福和伸夫 (減災連携研究センター教授)



[問い合わせ先]
 経済学研究科附属国際経済政策
 研究センター 052-789-4926

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

12月2日(土)

場 所：理学南館 1 階坂田・平田ホール
時 間：13:00~16:30
定 員：200名
対 象：一般
参 加 費：無料

宇宙地球環境研究所公開講演会「地球を観る」

講演題目：「月を観たら地球が観える」
講 演 者：諸田智克（環境学研究科講師）
講演題目：「宇宙から海洋プランクトンを観る」
講 演 者：石坂丞二（宇宙地球環境研究所教授）
講演題目：「ちぎゅう深部を掘ってみよう！」
講 演 者：阿部なつ江氏（海洋研究開発機構主任技術研究員）
講演題目：「地球のCT—地震波で観る地下3000km—」
講 演 者：大林政行氏（海洋研究開発機構主任研究員）
内 容：海洋底深部掘削、地震波トモグラフィ、リモートセンシングと海、そして月周回衛星「かぐや」をキーワードにして講演する



[問い合わせ先]

研究所事務総務課 052-747-6303

12月5日(火)

場 所：理学南館 1 階坂田・平田ホール
時 間：16:00~17:30
定 員：250名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成29年度全学同窓会講演会

講演題目：「チカラある分子をつくる」
講 演 者：伊丹健一郎（トランスフォーマティブ生命分子研究所教授）



[問い合わせ先]

全学同窓会事務局 052-783-1920

12月9日(土)

場 所：博物館 2 階展示室
時 間：14:00~15:00
定 員：200名（立ち見あり）
参 加 費：無料

博物館コンサート NUMCo「フラメンココンサート」

演奏曲目：「タンゴ」、「プレリア」、他
出 演：Jorge Millaqueo 氏（Cante（唄））、
山岸卓斗氏（Toque（ギター））、
稲吉直子氏、田中あや氏、西川正恵氏、小嶋奈見子氏
（Baile（踊り））



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

12月16日(土)

場 所：博物館 3 階講義室
時 間：13:00~14:00
定 員：80名
対 象：小学 5 年生以上、一般
参 加 費：無料

博物館特別講演会

講演題目：「腎臓の働きと形」
講 演 者：松尾清一（本学総長）
内 容：腎臓の研究者で医師でもある松尾総長がわかりやすく腎臓の解説をする



場 所：博物館 2 階実験室、展示室
時 間：13:00~16:00
定 員：22名
対 象：小学 5 年生以上、一般
参 加 費：50円（保険料）

ミクロの探検隊®「ほにゅう類の組織を電子顕微鏡で見よう」

内 容：生物顕微鏡、走査型電子顕微鏡を使用しじん臓や気管などの組織を観察して形と働きの関係を学ぶ

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.294 平成29年11月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部総務課広報室

本誌に関するご意見、ご要望、受賞の掲載、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2699 FAX 052-789-2019 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

サポートデスクを活用する

留学生ら

（平成29年 7 月 4 日）



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>）でもご覧いただけます。

187 名大の最寄り駅② — 地下鉄の発展 —

路面電車は1960年代に入ると、走行速度が遅いことや、道路交通の阻害要因にもなったことから、名古屋市の交通の主役の座を追われていきました。

路面電車に代わる都市鉄道として登場したのが地下鉄でした。名古屋の市営地下鉄は、今からちょうど60年前の1957(昭和32)年11月の、「名古屋」駅と「栄町」駅(のちの「栄」駅)を結ぶ区間の開業から始まりました(現在の東山線)。

1963年4月には「池下」駅・「東山公園」駅間が開通し、現在の「本山」駅も設置されて、東山キャンパスにも最寄りと呼べる地下鉄駅ができました。これと同時に、「覚王山」駅・「東山公園」駅間の路面電車は廃止されますが、すでにこの区間の敷設工事が始まった61年5月には、「覚王山」駅・「星ヶ丘」駅間の路面電車は営業を休止し、「電車代行バス」が運行されました。つまり2年ほどの間、東山キャンパスには最寄り駅がなかったことになります。

1970年代以降、自動車による道路渋滞や排気ガスの問題の緩和のため地下鉄への期待が大きくなり、路線が拡充されていきました。鶴舞キャンパスは、70年に「大学病院前」駅、72年に「鶴舞公園」駅を通る路面電車の路線が廃止され、最寄り駅は国鉄(現在のJR東海)中央本線の「鶴舞」駅しかない時期がしばらく続いていました。それが77年3月には、地下鉄鶴舞線の「伏見」駅・「八事」駅間が開通し、現在の「鶴舞」駅が設置されました。

しかし東山キャンパスは、依然として「本山」駅等から距離がありました。市営バスは運行していましたが、別途料金がかかるため、多くの学生は本山から歩きました。その状況を一変させたのが、2003(平成15)年12月に東山キャンパスの真下に設置された地下鉄名城線「名古屋大学」駅でした。翌年10月には、同駅・「新瑞橋」駅間が開通して名城線が環状化し、交通アクセスが格段に向上して現在に至ります。



1	2	3
4	5	

- 1 池下・東山公園間の地下鉄開通式(1963年、写真:名古屋市交通局市営交通資料センター提供、写真2、3も同じ)。この年、乗車料金は20円均一制で、車両は4月からようやく3両編成になった。
- 2 1969年から導入された、複数の金額の乗車券が販売できる自動券売機。それまでは金額ごとに別の券売機があった。釣り銭が出る券売機が登場したのも68年からであった。
- 3 鶴舞線の伏見・八事間開通式(1977年)。この頃、東山線と名城線の車両は黄色に塗装された「黄電」だったが、鶴舞線開業時に導入された3000形は、銀色の車体に青の一本線が入っていた。また3000形は名古屋市営地下鉄で初めて冷房装置を搭載した。
- 4 砂田橋・名古屋大学間が開通してから、名古屋大学・新瑞橋間が開通して環状化するまでの10か月間は、名古屋大学駅が名城線の終点で、行先表示版に「名古屋大学」と掲げられていた(写真はWebサイト「211系0番台の部屋」より)。
- 5 名古屋大学駅3番出入口とIB電子情報館。この景観は、2004年度愛知まちなみ建築賞及び2005年度名古屋市都市景観賞(まちなみ部門)を受賞した。